

家庭教育応援プロジェクト 親子の学び応援講座

# 郡山市PTA連合会西ブロック研修会

○ 期日 令和元年8月18日(日)

○ 会場 郡山ユラックス熱海

○ 主催 福島県教育委員会

郡山市PTA連合会 郡山市PTA連合会西ブロック

## 【講師】

株式会社情報文化総合研究所  
代表取締役 佐藤 佳弘 氏

## 【演題】

「子どもが危ない！スマホ社会」

## 【参加者】

郡山市PTA連合会西ブロック会員

保護者 102名

教職員 19名

郡山市教育委員会社会教育指導員

4名

家庭教育県中ブロック会議推進委員

1名

親子の学び応援講座事務局

3名

家庭教育応援プロジェクト

## 親子の学び応援講座 郡山市PTA連合会西ブロック研修会



スマホは今や生活の一部となっています。  
インターネット社会の問題点を知り、最新の情報をもとにした対処法  
など、私たちができることについて考えるきっかけにしましょう。

～ 演題 ～

「子どもが危ない！  
スマホ社会」



日時:令和元年8月18日(日)

13:45～14:55

会場:郡山ユラックス熱海  
大会講室

### ◆◆ 講師プロフィール ◆◆



株式会社情報文化総合研究所代表取締役  
武蔵野大学名誉教授 総務省自治大学校講師  
早稲田大学大学院非常勤講師 西東京市情報政策専門員  
東久留米市個人情報保護審査会会長  
東村山市情報公開運営審査会会長 他多数

主な保有資格  
情報処理技術者認定特殊(国家資格)  
マイクロコンピュータ利用者認定1級  
初級アドミニストレーター 他

講師:佐藤 佳弘 氏

主な著書  
『インターネットと人権侵害』 『脱!スマホのトラブル』

【事前に配付したチラシ】

## 【プログラムの実際】

郡山市PTA連合会第54回西ブロック研修会において「子どもが危ない！スマホ社会」と題した講演を行いました。郡山市PTA連合会西ブロックに所属する小学校7校、中学校4校、義務教育学校1校より100名を越える保護者、教職員が参加しました。

地域家庭教育推進県中ブロック会議、郡山市PTA連合会で、共に重要な課題としてとらえられている「SNS問題」について最新の情報を基に学習するため、株式会社情報文化総合研究所代表取締役 佐藤 佳弘 氏を講師として迎えました。

講演では、「スマホ社会の現状」「脱!スマホのトラブル」「子どもを危険から守るために」の3つの視点からお話をいただきました。豊富なデータや事実に基づく説明だけでなく、啓発動画を活用するなど、大変分かりやすく説得力のある講演でした。



【佐藤氏による自己紹介】

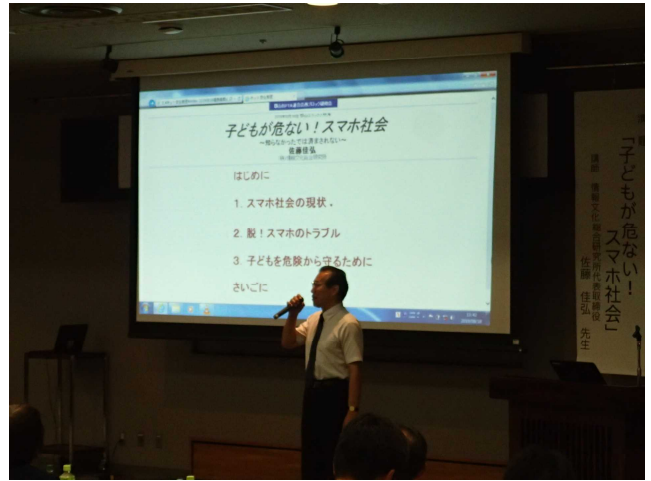
## 【講演内容】

### ◎ はじめに

- スマホは非常に便利な道具である。しかし、「便利」さの裏側には同じ大きさの「危険」が潜んでいる。

### 1 スマホ社会の現状

- スマホの普及状況は国民全体の80%を越えている。
- 子どものスマホ所有率は小学生3割以上、中学生6割以上、高校生9割以上で、年々上昇している。都市部に至っては小学生の5割を超えている。
- 保護者が心配している事項は「個人情報」、暴力や性などに関する「反社会的情報」、「身体的トラブル」の3つが特に多い。
- ネット上のトラブルに遭ったことがある子どもの割合は全体の7.5%で、1クラス40人中なら3人という数字になる。
- 福島の児童生徒のネット利用での問題は「いじめ」「長時間使用」「画像掲載」の3つが特に課題になっている（福島県教育センター資料より）。



【講演の内容についての説明】

### 2 脱！スマホのトラブル

スマホには98の危険があり、7つのシーンに分類される。その中から特に6つを取り上げて紹介したい。

- 自撮り写真の投稿
  - ・ ネット上に写真を掲載するのは「悪用してください」と言っているようなものである。
  - ・ 服を普通に着ている写真でも、顔だけを使って加工し悪用される。
  - ・ 友だちの写真を掲載し、悪用されれば掲載した人が「加害者」となってしまう。
- LINE「友だち自動追加」
  - ・ 初期設定では「自動追加」する設定になっている。
  - ・ スマホを初めて手にするとほとんどの子がLINEを入れる。初期設定は保護者がいっしょにやってあげるべきである。よく見ないで「次に」「設定する」をクリックしていくとアドレス帳に入っている他の人の情報も漏れてしまう。
- デジタルタトゥー
  - ・ 大きな会社の人事担当者はネットを使って採用候補者について調査をする。ネット上に不適切な写真や情報があれば、就職だけでなく、結婚の際にも影響が出てくる可能性がある。
  - ・ ネット上のつまずきは一生を棒に振る大けがになる。「失敗しながら覚える」という考え方は通用しない。
  - ・ 「人の噂は75日」だが、ネット上の記録は絶対に消すことができない。
- 私生活の投稿
  - ・ 写真の背景だけで住んでいる地域や家を特定される。
  - ・ 旅行に出かけている情報を掲載することは、空き巣や泥棒に餌をまいているようなものである。一人で留守番をしている場合などは、性被害に遭うケースも想定される。
- ネットストーカー
  - ・ SNS上にある個人情報をつなぎ合わせて住所や名前を特定し、ストーカー行為に及ぶケースもある。
  - ・ 安易に個人情報や写真を掲載することは、ストーカーに餌をまく行為である。
- 電磁波の発がん性
  - ・ WTO（世界保健機関）によると、携帯電話の電磁波はガソリンエンジンの排ガスと同等の発がん性リスクがあるとされている。がんとの因果関係は十分なエビデンスによる立証はされていないが、国によっては最高裁で認められている場合もある。
  - ・ 携帯電話の電磁波は電子レンジと同様のもので、「脳をゆっくりとチン」しているようなものである。フランスでは14才以下、イギリスでは10才以下は携帯電話の使用が禁止されているが、日本では危険予防の考えをとっていない。

○ その他の危険

- ・ 六次の隔たり  
「友だち限定」で発信しても、その友だち経由で情報が拡散することもある。
- ・ サイト利用におけるクーリングオフ  
ネット通販はクーリングオフの対象外である。
- ・ 無断充電  
違法行為である。

3 子どもを危険から守るために（家庭でできること）

- 話しておく、決めておく
  - ・ 未成年は契約行為ができない。スマホの持ち主は保護者で、子どもは借りて使わせてもらっていることをはっきりさせておく。
  - ・ きまりはできる限り具体的に、こと細かく子どもと一緒に作る。
- フィルタリングを使う
  - ・ 未成年へのフィルタリングは法律で義務付けられている。当然、携帯電話業者にも義務付けられている。
- ペアレンタルコントロール
  - ・ iPhoneでは標準装備である。Androidではアプリをダウンロードして設定しなくてはならない。
- LINEの設定
  - ・ 「友だち自動追加」「友だちへの追加を許可」をオフにするなどして、LINEを出会い系にしない設定をしてほしい。
- 異変のキャッチ
  - ・ 子どもはネットトラブルにあうと、「食欲がなくなる」「寝坊」「学校に行きたがらない」等の異変が見られるようになる。保護者がそれをしっかりと受けとめて、トラブルに気付いてあげなくてはいけない。

【感想など】

◎ 保護者

- 子どもに話してあげたいが伝え方が難しいです。学校でもこのような話を聞く機会があるとよいです。
- 子どもを守るのは大人の役目だと改めて考えさせられました。
- 大人たちも、もう一度スマホについて学び直す必要があると思いました。
- 家庭や学校だけでなく、国全体でも取り組むべき課題であると思います。
- トラブルに巻き込まれた際の子どものサインをキャッチすることも大切だと思いました。
- 大人もきちんと意識していないので、トラブルに巻き込まれる可能性が高いと思います。
- 子どもたちに直接講演していただくと意識が変わると思います。
- しっかりルールを決めて、親が責任を持つことを忘れないようにしたいと思います。
- LINEの初期設定など、ためになりました。
- 家庭任せにせず、行政はじめ社会全体で取り組まなくてはいけないと思いました。
- 大人も子どもたちの手本となる使い方をしなければいけないと思います。
- 電磁波と発がん性の話をもう少し詳しく聞きたかったです。
- 「脳をゆっくりチンしている」という表現に衝撃を受けました。
- 親もしっかりと理解しておくべきだと思いました。
- 人体への影響についても学べてよかったです。
- 使い方次第でとても危険であることが分かりました。
- ペアレンタルコントロール等、子どもと一緒に再確認しようと思いました。

◎ 教職員

- 福島のデータも紹介していただいて参考になりました。
- 児童向けにお話いただければと感じました。
- もっと具体例をお聞きしたかったです。
- 脳にまで電磁波が届いているなんてびっくりしました。
- 家庭や学校でリスクについてきちんと伝えることが大事だと思いました。
- 「みんな持っている」「みんな使っている」で済ませられていると思うと残念です。
- 便利の裏にひそむ危険性を具体的に説明いただいて参考になりました。